

# 推進センター事業が始動

神奈川県は今年度から、関係団体や民間企業と連携して介護ロボットを普及させる「介護ロボット普及推進センター事業」に取り組んでいる。これは公明党神奈川県議団の提案を受け、実現したもの。

## 神奈川県

党県本部の上田いさむ代表(次期衆院選予定候補)神奈川6区)と党県議団(鈴木秀志団長)はこのほど、同事業に協力している横浜市内の高齢者施設や病院を視察し、関係者と意見を交わした。

発、人材育成などの役割を担う「介護・福祉ロボット普及推進センター」の創設を提案。黒岩祐治知事も「民間企業や団体と連携して具体的に取り組む」と述べ、実現へと動き出した。

県は協力事業者を6月に公募した結果、横浜市内で特別養護老人ホームなど介護事業所を運営する社会福祉法人同慶会および病院を運営する医療法人社団成仁会と同事業に関する協定を7月13日に締結。この中で、①介護ロボットの導入と評価

同苑を訪れた一行は、お年寄りがパロの体をなでながら鳴き声や甘える仕草に親しむ姿や、パロ口と会話を弾ませたり、歌やゲームなどを楽しむ光景を視察。苑内を案内した小林央施設長は「パロやパルロが介在することで、介護者と入所者とのコミュニケーションを円滑にする効果を生み、介護者の負担軽減にもつながっている」と評価していた。

介護ロボット普及推進センター事業は、介護、医療の現場で実際に介護ロボットを集中的に使ってもらい、開発や改良につなげるとともに、その活用方法を広く県内の介護、医療関係者に公開す

ることによって、介護ロボットの普及を促進することが狙い。これについては鈴木議員が今年2月の本会議で、介護・福祉ロボットの展示や情報提供、相談コーナー、運用技術の開

# 老人施設や病院で5機種31台を導入

②県内の介護、医療関係者らによる視察や見学の受け入れ③県が設置する介護ロボット普及推進研究会への情報提供―などについて、互いに協力することを取り決めた。

このうち、同慶会が運営する特別養護老人ホーム「芙蓉苑」には、人の顔を覚えて会話できる人型ロボット「パルロ」(8台)、癒やしや認知症ケアに効果があるアザラシ型ロボット「パロ」(12台)など3機種25台を導入。職員研修を経て、8月28日から視察・見学の受け入れを開始した。

## 上田氏と党県議団が視察

一方、成仁会が運営する長田病院には、サイバーダイン(茨城県つくば市)が開発した下半身に装着して自立・身体動作、歩行を支援するロボットスーツHAL®福祉用など、2機種6台を配置。患者のリハビリに活

用し、収集データの分析や研究を進める計画だ。視察を終えた上田県代表は、「介護、医療サービスの確保や従事者の負担軽減は重要な課題。現場のニーズに合ったロボット技術の開発や実用化、普及が一層進むよう必要な支援に全力で取り組みたい」としている。

# 介護ロボットの普及へ



特別養護老人ホーム「芙蓉苑」の取り組みを視察する上田氏(左端)と党神奈川県議団

## 活用現場を公開し理解促す